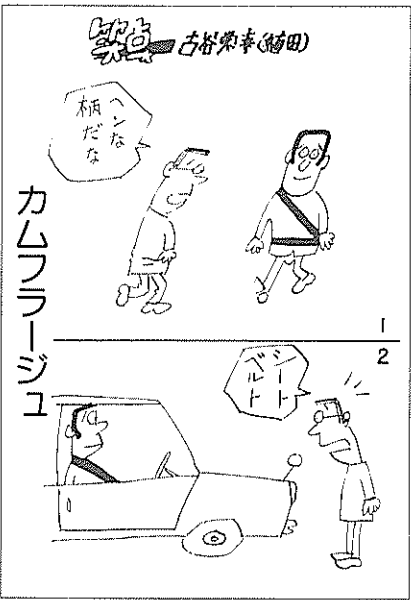


坂本龍馬先生 生誕150年に思う

中田政春（浜改田）

昭和二年、当時の香美郡田村出身で、早大法学部の学生の入交好保氏の提唱されていた龍馬先生の銅像建設が具体化し、資金一萬五千円調達に県青年は一丸となり奮起しました。米一升二十〜三十銭のときで、猪の十円札が貴重な大金でした。

ものではなく、全国的な支援を願う後世に残る歴史的な記念の年とされるように、銅像建設にいさゝか貢献した生き残りの昭和初期の青年として、当事者の人々に切にお願いいたします。



「あてい」せんぱい

藤宗 昇（田村）

「お義父さん、保育園へ送り迎えしている八十七歳のお年寄りがおるぞね。同じように自転車ですすよ」とすると、七十路の男は開口一番「わやにしろよ」。一笑に付したという。日章保育園児のいる家庭のことである。

ママさんの群れに交じって、すいと自転車走らせている老友の姿に、驚異の目を見張っている。「あていがバイクの更新に行ったら係の女の人が、おじいさんはよけ目が良くなつちよるねえ」と言われた。けんこ、孫や婿やが、もう怖い乗るな言われよる。バイクにも乗れば眼鏡なして新聞が読めると言うのである。

近ごろ、普通より倍ぐらい大きい活字本を図書館（南国市立図書館）

「あていのばんばも畑に草一本生やさんばあ動きよる」。淡望の二重奏である。あていといばんばといひ甚だ郷愁をそそる。遠い昔が息吹く。荷馬車ひき稼ぎの昔話は、このあてい先輩のおはこである。人間には八十五歳という生物学の壁がある。そんな学説を笑い飛ばしている。南国市民の中から第二の泉重千代が出るなら、恐らくこの私の大先輩かもしれない。

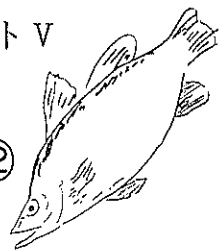
「家庭で話し合って答えてください。答えは、この広報に出ています。」
■もんだい・〇〇の日にちなみ、各地区でお年寄りを囲んだ楽しい催しが行われました。
■しめきり・10月15日
■あてい先・〒783 南国市大浦甲一三〇一 南国市役所内広報委員会親子クイズ係
■答えのハガキには必ず、住所氏名、年齢、職業を書いてください。
■賞品・正解者の中から、抽選で五人に図書券を進呈。
第104回当選者発表（敬称略）
（応募総数35通）
■答え・(あ) (あ)
■当選者五人
前田満雄（片山）
田内朋世（片山）
川口章子（十市）
高木梅子（前浜）
浜口修久（東崎）



釣りの秘訣 パートV

釣りのエピソード…自慢話②

浜田広信（植田）



失敗談だけではおもしろくない。今度は大物を釣った話。昭和二十五、六年ごろアカメを二人して浦戸湾のセメント前の沈船で一日に四十尾あまり釣った。アカメは中村ではミノウオと言つて、「いあまりの大物がこのごろ」とときどき上がる。スズキと同様の魚で目が赤いので高知ではアカメと言つた。中村ほど大物ではなく一尾二、前後の物である。引きが非常に強いのでおもしろい。八、九月ごろ大雨が降った後にセメント会社前でよく食つた。

つと早い。生きるかどうか不安である。「もし死ぬようであれば、かつてに処分してよろしい」。生けすより鯉とれば鯉に時雨けり。の田中寅太郎の句あり。寒くならないと生きが悪い。とにかく頼んで帰った。

村のいとこに話した。それは釣りに行かねばならぬと決し、一日おいて二人で行くことになり、朝早く餌のエビを六、七十尾買込んで青柳橋元のエビ屋から舟を借りセメント会社前の沈船へと急いだ。案の定、釣り船は一つも来ておらず「よし、釣れるぞ」と潮待ちして、あらゆる釣りの準備をした。



（市教育委員会発行の「子どもの目」から）

南国歌壇

庵むすび酒と歌詠みなげかひし
歌人勇のおもかけを尋む
大浦 中田憲秀
眼のいたく不自由らしき老人が
亡き妻に挿すと花買いくるる
岡豊町 葛目治子
釣り終えて家路に急ぐ夕焼けに
明日をうつらなふさぎ波の音
浜改田 西村繁行

南国柳壇

霧にけむる湖のほとりを吾子たち
の旅ゆく写真送られてきぬ
後免町 刈谷益子
地へ往きし女の一生効なりて
子等の祝福今日結婚の日
後免町 徳久まさみ
つばくろの子等電線の揺れいるを
楽しみみるか尾羽根を振りつ
西山 岩貞健一郎

南国俳壇

此奴がと効いた拳固の恩師逝く
十市 武市日出志
血圧にこの頃なやむ管理職
岡豊町 橋田井波
満ち足りた目覚めにいそそ草むしり
西山 竹村寿賀
秋冷の候も間近や虫の声
里改田 田所千枝
晩齢にながき八月くたびれる
ふと来世想う紅蓮散るなかに
樽に來樽飲く黒揚羽
朝の雷女つまらぬ意地をはり
炎天を斜めに入れて草を刈る
瀧を見て女の性が無頼めく
菓割れて嘉永・文久 泡立草
夏座布団大きく寝みて客帰る
かなかなや一輛でくるローカル線